

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192500468		
法人名	(有)アートライフ		
事業所名	あおぞら南永井		
所在地	埼玉県所沢市南永井2-7		
自己評価作成日	令和2年10月29日	評価結果市町村受理日	令和2年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和2年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・天窓から差し込む日差しで明るく開放的な平屋造りであり、ユニット間での交流や、職員の協力体制が取りやすい。 ・毎日、ユニット合同での体操を行う時間を設け、筋力維持、他者との交流の機会の確保につなげている。 ・環境に恵まれた場所であり、施設周辺の散歩や外気浴にて季節の移り変わりを感じて頂いている。 ・eラーニング研修や、資格取得制度により、職員のスキルアップ、サービスの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員は「ともに助け合う関係作り」を大切に、利用者一人一人と関わられることを喜びとされている。職員間の連携や協力体制が良好のため、退職する職員はほとんどおらず、利用者も顔なじみの中で穏やかに過ごしている。今後も、利用者、職員がより安心した日常が送れるようにコロナやインフルエンザなど感染症予防対策の研修を継続的に実施したいと検討をされている。 ・運営推進会議では、感染症予防対策上、開催できない状況ではあるが、事業所の取り組み状況や実践状況を電話で報告され、意見をいただいている。 ・目標達成計画の達成状況については、ライフラインが途絶えたときの体制を整えられ、さらに詳細な役割分担を決めようとして検討をされていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のひとつである地域を愛し地域から愛される企業を目指すことを踏まえ、地域との関りを大切にしている。	法人のスローガンを理念とし、ミーティング時に全職員の意見を聴きながら振り返りが行われている。尊敬の念と笑顔で信頼関係が築けるように努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止のため、地域との積極的な関わりを持つことが困難な状況にあるが、散歩中に近隣の方と挨拶を交わしたりしている。	コロナ禍によりボランティアの訪問が制限されている状況ではあるが、民生委員から情報を頂いたり、職員が一丸となり、利用者が楽しめるレク活動を企画され実施されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度においては、実施困難であるが、例年職業体験やボランティアの受け入れにより認知症に対する理解を深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、コロナウイルス感染防止のためやむを得ず実施を控えているが、再開の際は以前同様、地域の方々やご家族との意見交換によりサービス向上に努める。	感染症予防対策上、開催できない状況ではあるが、事業所の取り組み状況や実践されていることは電話で報告され、意見を頂いている。今後は、書面でお知らせすることを検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、報告及び相談を行い、協力体制を築いている。	市からは感染症対策や防災に関する通知など様々な情報をいただいている。また、市へはできるだけ外向き、事業所の取り組み方法や空き情報などお伝えし、生活保護担当者とも連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	eラーニングによる研修や、カンファレンスにおいて周知を図り、身体拘束ゼロの徹底を図っている。	ヒヤリハットや事故事例をもとに利用者ごとのリスク管理について話し合いが持たれている。利用者の気持ちを大切に、行動を制限しないための方法について検討をされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修での知識習得に努め、職員間での情報共有により、虐待防止を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修及び個別での知識習得に努め、得た知識をカンファレンスで共有できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて、分かりやすく十分な説明に努め、不安や疑問点は、その場のみならず電話でもお問合せ頂くよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族が意見を伝えやすい関係性を築けるよう努め、意見、要望を頂戴した際は、本部と情報共有により運営に反映できるよう努めている。	利用者とは寄り添いながらゆっくり話を聴かれている。家族からはガラス戸越しの面会や電話、手紙などで意見をいただき、居室の家具の配置などに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員意見を伝えやすい環境作りに努め、月次ミーティングでも意見、提案を行う機会を設け、必要に応じて本部への伝達により反映に努めている。	コロナ禍であっても、調理イベントやプランターで野菜を育てるなど利用者が楽しめる企画が催されている。また、職員介入のタイミングやケア方法など意見交換がなされ、サービスに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談の機会を設け、上申体制を整え、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ制度を活用し、自己での振り返りを行いながら個別での課題設定を行い、スキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスの影響により、交流が取りにくい環境にあるが、法人内でのネットワークによりサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当のCMを通じて情報を得て利用者及び家族との面談を行い、状況把握を行っている。困っていること、思い、どうしたいのかなど傾聴した上で信頼関係を作り、安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までどんなサービスを受け、どんなことに困ったかなど聞いた上で本人家族のニーズを把握し、話し合いを重ね、ニーズに合わせたサービス提供が行えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階でよく話を聞いて現状を把握し支援を行っている。必要に応じて他のサービス機関と連携を図り提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のこだわりややりたい事、してほしい事、できる事を尊重し、共に支えあえる関係作りを大事にしている。家事など一緒に行うことでいい関係作りができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に日頃の様子や対応を伝え、情報共有しながら家族の思いも大切にしている。毎月の写真付きのお便りで日頃の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人との関係継続のための面会、外出等の支援を行っていたが、現在はコロナウィルス感染防止のため、電話での関りや、ドア越しの面会対応となっているが、引き続き支援に努めたい。	品物や手紙が届けられたり、電話でやり取りが行われているが、掃除などでは利用者同士が声を掛け合うなど、助け合う関係が築かれてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性を、日々の行動、言動を把握し日中過ごす席に配慮している。利用者同士が不穏な関係の時は、職員がフォローし、利用者同士の関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時は相談支援が行えるようサービス終了後も相談しやすい環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや意向を日常の生活からも汲み取れるよう努め、本人の意思を尊重できるよう支援している。	職員は利用者の様子を常に観察し、積極的に声をかけ、コミュニケーションを図ることに努められている。臨機応変な対応と小さな気づきの積み重ねから気持ちを把握されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の聞き取りにて把握に努め、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の現状把握を行い、有する力を活かして生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等によりモニタリングを実施し、個々の課題を定期的に話し合う場を設け、計画書に反映するよう努めている。	居室担当者が中心となり、利用者の行いたいこと、楽しいことを聴き取られ、できることを活かした介護計画が作成されている。モニタリングは毎月実施され、新たな課題の把握にも取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートでの情報共有により、日々の様子把握により対応について検討、対応を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズの把握に努め、柔軟に対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村や包括支援センターから情報を得たり、散歩を兼ねて近隣の朝市で野菜を購入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診や訪問看護で健康管理に努めている。本人や家族の意向を尊重し、医療機関との連携を密に取り、関係を築いている。	ペースメーカーの定期検診や耳鼻科、眼科等専門医を受診する以外は、訪問診療、訪問歯科、訪問マッサージや薬剤師の訪問など充実した医療体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で訪問看護相談の行える環境を整え、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の迅速な情報提供、退院時の情報収集や必要に応じてIC同席により連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時及び必要に応じて都度、重度化した場合や終末期の在り方について話し合いの機会を設けている。また、かかりつけ医とも方向性を共有し、支援方針の決定を行っている。	看取りの経験はないが、24時間体制が取られ家族の相談に応じられている。看取り指針に基づき取り組まれているが、時には他施設を紹介されるなど、事業所としてできる最大の支援に努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に講習を受け、職員一人一人が急変時に対応できるよう備えている。また、事故報告書の振り返りを定期的に行い、対応について検討を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立ち会いでの避難訓練を実施。様々なケースを想定し、全職員参加するようにしている。	消防訓練では危機感を持って実践することが大切と理解をされている。また、利用者の重度化により、職員だけの避難誘導が課題となっていることから、今後は近隣の協力要請も行いたいと検討をされている。	役割分担は概ね決められています。もう少し明確にされること、また、近隣と合同訓練を実施されるなど協力体制が構築されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活歴や性格を理解し、声掛けを行っている。	日頃から身体拘束適正化委員会で羞恥心や尊厳について取り上げ、声かけの仕方や接し方を職員全員で共有し、基本理念である「ありがとう」と「笑顔」を意識した対応に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対話の機会を多く持ち、本人の希望や思いをできるだけ叶えられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にし、心地よく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容を行い、好みの服装で過ごせるよう気を配り、理美容の訪問サービスも利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルのセット、食器拭きなどを手伝って頂いている。	利用者に合わせ一口大、刻み、ミキサー、ムース食など個別に対応をされている。また、テーブル拭きや食器洗いなど手伝っていただき、お好み焼きや焼き芋などおやつ作りも楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態などを考え、水分量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り、一部介助にて口腔ケアを行い、就寝前には義歯を預かり洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により排泄パターンの把握を行い、一人ひとりに合わせた声掛けやトイレ誘導、尿取りパットの使用などにより排泄の自立促しを行っている。	個々の排泄パターンを把握され、パッドの節約に繋がられたり、牛乳やヨーグルトなど乳製品の摂取で薬に頼らないスムーズな排便が促されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表により排便状況の把握を行い、医師との連携も図りながら個々に沿った支援を行い、10時と15時に乳製品の摂取も行う便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向確認を行いながら、入浴拒否のある方においても声掛け等の工夫を行い、快適に気分転換にもなるような入浴が行えるよう個々に合わせた支援を行っている。	身体面に配慮をされ、シャワー浴や職員2人対応など、柔軟な対応で支援をされている。また、浴室暖房によりヒートショック予防にも配慮がとられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣やその日の体調に応じて休息が行えるよう、日頃の状況把握に努め、声掛け等により気持ちよく休めるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能や副作用の理解に努め、服薬内容変更の際は、連絡ノートでの周知徹底、様子観察を行っている。飲み間違いや飲み忘れ防止のため、二重確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、個々に合わせた家事等の役割を持って過ごせるよう支援を行い、歌や体操など楽しみの把握、実施、誕生会の行事等で気分転換を図り、張りのある生活を過ごせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響により、外出支援が難しい状況ではあるが、施設の玄関先での日光浴や、施設周辺の散歩の支援をできる範囲で行っている。	コロナ禍により外出が難しい中ではあるが、少人数で散歩や朝市に出かけ富士山を眺めたり、外気浴や駐車場で焼き芋パーティーを開催されるなど工夫をされながら、外出支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお小遣いを預かっており、本人の必要なものや希望されるものを本人の能力に合わせた方法で購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所でのプライバシーに配慮した電話対応や、手紙のやり取りがスムーズに行えるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔保持に努め、音、光、温度等に気を配り、利用者と共に壁画作成をして季節感作り等により、心地よく過ごせる環境作りに取り組んでいる。	フロアには大型加湿器が完備され、壁には利用者手作りの飾りが展示されている。エントランスに置かれた電子ピアノはイベント時や体操の際に用いられ、吹き抜けで開放的な作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにおいてテレビを視聴したり、新聞や雑誌を用意したり、施設内の所々にソファを置き、思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃使用していた家具等を居室に配置し、ご自宅で過ごされているような安心感を持つよう配慮している。	タンスやテレビなどの持ち込み品や自分の作品が飾られており、職員と一緒に掃除をされ、清潔面にも配慮をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの場所がおひとりで安心、安全に使用できるよう、表札や写真、絵などをつける工夫をしている。		

(別紙4(2))

事業所名: あおぞら南永井

作成日: 令和 2 年 12 月 28 日



目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	○感染対策 コロナ禍の終息が見えない中での徹底した感染対策継続について	・感染防止に関する知識習得 ・感染時の対応方法	・コロナのみならず、インフルエンザ、ノロウイルス等、感染症に対する研修等による知識習得、対策実施。 ・行政ネットワークの協力体制の把握、相談連絡先の明確化。	12ヶ月
2	35	○災害対策 利用者の重度化により、職員のみでの避難誘導が課題となっている	・災害発生時の昼夜を問わず安全に避難を行う協力体制の構築 ・全職員が迅速、安全に避難できる方法の周知徹底	・近隣住民との合同訓練や、日頃からの関りにより協力体制を作る。 ・役割分担を具体化し、避難訓練等にて実際に実施することで役割を明確化する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。